

Story of their Success

進学先

東京大学 理科一類

寺田 侑史さん

桐蔭高校 (桐蔭中学)
科学部、創作部 (俳句班)

進学先

東京大学 理科二類

武内 龍歩さん

桐蔭高校 (桐蔭中学)
柔道部、創作部 (俳句班)

Academy Campus入会のきっかけを教えてください。

武内: 小1の時にパズル道場(算数の土台の力である論理的思考を伸ばし高める教室)から通い始めて、GES(小学生部:県立中学受験専門クラス、中学生部:桐蔭中学完全専門クラス)、ACとずっと通いました。パズル道場から僕の「算数無双」が始まったので、あれがなかったら桐蔭中の受験も厳しかったかなと思います。あと、速読解(速読解トレーニング教室)も受けていました。

寺田: 僕は小5の秋に和歌山に来たんです。で、中学受験に挑戦してみようかという話になり、GES(小学生部:県立中学受験専門クラス)に行き始めました。最初は不安だったんですけど、有本先生(GES)に熱く指導していただいたおかげで、GESの中で1位になって、桐蔭中に合格することができました。で、同じようにACまでずっと続けました。

部活を含めて様々なことにチャレンジしていたことについて教えてください。

寺田: 部活は科学部が中心。俳句班は誘われて助っ人で。まさか全国大会に行けるとは思ってなかったです。科学部は中学の大半はコロナ禍で活動自体も活発ではなかったんですけど、中3から本格的に活動できるようになって。(※1)NASA主催のハッカソンに参加してオンライン審査で地方大会最優秀賞をいただき、世界大会に出場できました。

その知識を使って自分たちで開発したアプリを文化祭で披露することもできました。

武内: 僕は柔道部が中心。俳句班は同じく、熱心な友達に引っ張ってもらったという感じなんです。生徒会は高3の時だけ。

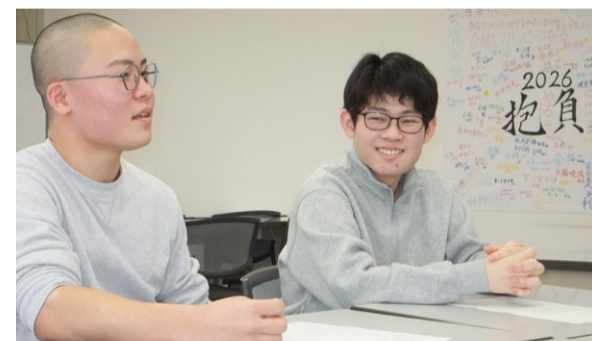
(※2)スタンフォードでは、ちゃんと事前に行うことの大切さを学びました。本当に。課題提出日の前日、全部ギリギリになんとかしていました(笑)。課題が配付された翌日に終わらせたらどれだけ後が楽になるのかっていうのを、後半になるにつれてやっと実感できました。

寺田: 僕もスタンフォードは参加できてよかったです。世界中の著名な方々に関わる機会なんてなかなかないので。龍歩(武内さん)と同じくアサインメントはだいぶギリギリで。提出してもやり直しやり直しの連続で。受講しなければよかったってちょっとは思いましたけど(笑)。でも、最後のセレモニーでスタンフォード大学のインストラクターの方と実際に話もできたし、終わってみるとやってよかったなって思いました。

※1 NASAが主催する世界最大級のハッカソンイベント「NASA Space Apps Challenge」。米航空宇宙局(NASA)の公開データを活用するアイデアを短期集中で形にするハッカソン。2024年度「NASA Space Apps Challenge KUSHIMOTO」には、様々な地域より中高生から社会人までの8チームが参加。2日目は、短い時間の中で集中し各チームが挑戦するミッションを決め、それを実現するソフトウェアの開発に取り組む。最優秀賞に選ばれたのは、桐蔭高校科学部チーム「STARLINER」の『星座は、「夜空に探すもの」から「夜空に創るもの」へ』。

※2 Stanford e-Wakayama

県教育委員会がスタンフォード大学と連携して実施する和歌山県の高校生向け同時双方向型オンライン遠隔講座。スタンフォード大学専任講師や現地起業家等による講義、及びディスカッションやプレゼンテーションなどを行う。オールイングリッシュによる講座を複数回受講後、受講者一人ひとりが「英語によるプレゼンテーション」を行う。



志望校を決めた時期やきっかけは？

武内: 小学校の時から「将来は東大や！」ってずっと言われ続けて…(笑)。学校やアカデミーの授業で東大の問題が出されたときに「面白い！」と思うことが多々あって。東大の英語の長文問題はめちゃくちゃ難しいんですけど、日本語で読んでも面白い話ばかりで。これを解いて面白いと感じるってことは、僕は東大に向いてるのかなって(笑)。久保田先生(ACクラスライブ授業:英語)の授業でも、毎回チェックテストの点数と志望校を書く時にずっと「東大」って書いていました。

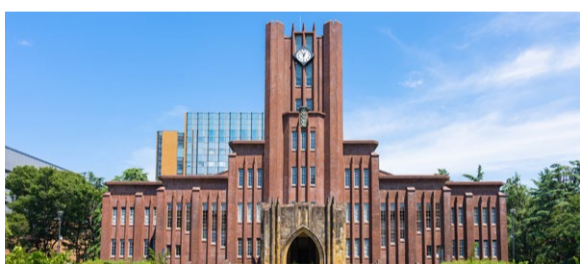
寺田: 僕はけっこう遅い方で。東大とはっきり意識したのは高3で初めて大学別模試を受けた時。自分に合ってるのは東大か京大かを考えた時に、東大ってけっこう堅いのかなと思っていて、それなら自由な雰囲気京大がいいかなと思っていました。模試では東大の方が判定が悪かったこともあって、やっぱり東大と京大の間には壁はあるんだなと思ってたんですけど、高2の終わりに受けた共通テスト模試で896点(1000点満点)も取れて。これだったら東大も狙えるんじゃないか、考えてみるかと思って大学別模試を受けたらB判定。そのあたりから気持ちが変わって本格的に東京大学を目指すようになりました。

選んだ大学受験の方式は？

武内: 僕は前期一本勝負。前期以外は出願しませんでした。

寺田: 僕は後期は他の大学に出願しましたが、東大の前期が終わったら燃え尽きていました。そこから後期に向けて勉強を続けるということに、正直モチベーションがわかなかっただす。

武内: 後輩には、受験を早く終わらせたいとかしんどいからという理由で推薦を選ばないでほしいとは思っています。受験生活がしんどいと思っているんだしたら、それは勉強法が悪いのかなって。自分の場合は前期まで頑張るっていうのがあったからこそ鍛えられたなって思う。結局みんな最後までやるんで。早く終わろうとか、極端に思う必要もないんじゃないかなと思います。



得意科目や苦手科目について教えてください。

武内: 英語は平均点ぐらいだった。数学は確実に平均以下。化学は本当に努力しました。化学をここまでやりこんでいなかったら東大合格は無理だったなって思う。

寺田: いままで数学は天才型だと思ってたけど実際は全然違った。僕も龍歩と一緒に数学は平均以下でした。今村先生(ACクラスライブ授業:数学)に特訓してもらった上でその状態。化学は龍歩には及ばないけど努力しました。亀田先生の授業(代ゼミサテライン講座)亀田和久講師(ハイレベル化学①②)(ハイレベル化学問題演習)で知識を入れて

から問題を解きました。物理は嫌いではないけど物理っぽい考え方ができなくて。典型的な問題だったらできるけど、東大レベルの問題は全然できない。物理はもっとやればよかったかなって思います。

定期テストについてはどう考えていましたか。

武内: 普通に考えたら、高1・高2で東大の問題を解くのは、無理な話。結局…、高1・高2は定期テスト。で、初めて東大受験のスタートラインに立てるのが高3の8月ぐらい。そこから「よーいドン」で始まるけど、それまで定期テストの勉強をやってると、筋トレはできていて。

寺田: 基礎体力がつくよな。志望校対策を早くやったらダメってわけじゃないけど、もったいない気がする。もっと勉強以外にも学校で楽しいことあるし。最終的な志望校のレベルにもよるけど、結局定期テストって教科書の内容がメインで、教科書って大学受験の試験範囲。だから、受験に必要な範囲を完璧にするんだしたら定期テストが大事でしょって。確かにテストによって問題集を覚える記憶ゲームみたいなものもあったりするけど、それでも覚えて損するのかって言われると、別に損はしない。定期テストを全力でやれること、それ以外に必要なことって高1・高2はあまりないじゃないかなって思う。



武内: 僕らの中では「定期テスト=ゲーム」。医学部を目指す子たちもいる中で、負けるのは癪。内進生(桐蔭中学校卒)の定期テストにかかる情熱は正直キモいレベルでしたね(笑)。高校になるとちょっと薄まったけど、また新たに加わった人たちもいて。定期テストはプライドをかけたゲームという感覚でした。やっぱり学年に一人ぐらいは、めっちゃ点数が高い「え、お前〇点なん?」ってバカにしてくるような奴が必要だと思う。それがないと頑張れない(笑)。今思えば、端から見たら幼稚な戦いでしかないけど、学力面では一気に成長したなと思います。アカデミーでも学校でもそれぞれライバルがいてよかった。

寺田: 人に点数を聞くことを上位勢は恐れないうほうがいい。萎縮してると、周りがどれぐらい点数を取っているか、周りの「できてる」って言われる子がどのレベルかが分からないと、結局自分の立ち位置も分からないし。一人しか勉強

ができる子がいないとなると、もうその子はどうしていいか分からない、モチベがなくなると思う。「敵は全国にいる」って言われても、見えないし。誰に勝てばいいん?ってなる。それを考えると、僕はライバルがいて恵まれていたなって思います。

武内: 全部100を目指すべき。本当にそう。勝ったとかよりも全部100が大事。73点で学年1位とかいうのは、東大模試くらいじゃなかったら面白くないし。歪んでしまった点数への価値観です(笑)。でもこういう考え方で僕たちは大いに成長しました。こういう感覚も大事やと思うし、それがないと厳しいんじゃないかなと思う。



Academy Campusのことについて教えてください。

寺田: 東大の数学を戦えたのは今村先生(ACクラスライブ授業:高1ハイレベル数学、高2ハイレベル数学、難関大二次対策数学)のおかげ。本番ではちょっとコケたんですけど、各大問の間1をある程度解けたのは今村先生の授業があったから。単に知識を教えてくれるだけの授業ではなかったので、どのように使うのか、使いどころはいつなのか、計算量はどの程度か、など多角的に解法を吟味することができました。それに高2の早い段階から二次試験直前までずっと、毎授業で個々の志望校にあわせて入試問題を宿題にしてくれていて。粘り強くアプローチする力や数学的な思考力、添削をしてくれるから記述力も身につきました。何から何まで今村先生が指導してくれたので本当にありがたかったです。

武内: 僕は、長沼先生の国語(ACクラスライブ授業:共通テスト攻略国語)。共通テストの対策を自分でやっていたら解説の内容が自分の考えと全然違うこともあって。そもそも自分の読みやすい感じに勝手に解釈してしまう。僕は理系やし途中で国語は簡単に諦められるとは思んですけど、でもそこで、長沼先生の授業でずっと言われてきたことを言われた通りに素直にやってみたら、初めて評論を解く方法が分かった。長沼先生の授業を受けてなかったらずっと偏屈に我流で読んで失敗したたるうなって思います。苦手意識のあった古文も似顔絵やイラストを活用した授業で面白く解説してくださいました。サテライン(代ゼミサテライン講座)では、亀田先生

の化学(亀田和久講師<ハイレベル化学①②><ハイレベル化学問題演習>)が一番よかった。受けてなかったら東大は落ちてたかも。化学は特別な勉強をしてなかったのではから始めていいからなかったんですけど、「化学面白い！」って思えるようになったのが僕のターニングポイント。だから亀田先生の授業が一番よかったと言いたいです。

寺田: 僕の一番は、富田先生の英語(富田一彦講師<英語解法研究><東大英語>)。高2から受け始めて、初めはなんでこんなめんどくさい読み方するんやってずっと思ってた。「I like dog.」という簡単な文でも、likeの取れる文型は?っていちいち考えさせたり、dogは名詞だから名詞を支える手が必要、とか…。何を言ってるんやろってずっと思ってたんですけど、実際に二次対策や過去問を解いていく中で、難しい文構造を見ると、今までめんどくさい読み方をやってきたことの真骨頂が見れたというか…。富田先生の授業は、英語の授業はもちろん、学ぶとは何かみたいな深いところまで教えてくれたのでいい授業だったなって思います。

武内: 確かに。東大の英語なんか僕には解けないという固定観念があったんですけど、富田先生の授業を受けてたら僕にも解けるレベルなのかもって思えてきて。先生が赤子の手をひねるかのように解いていく姿を見てたからこそ、自分の中で挑みやすくなった感じがしました。

寺田: 冬期講習で受けた東大数学予想問題の授業(土田竜馬講師<東大理科数学予想問題演習>)も最終のまとめによかったです。本番と同じような形式で2セットできて。印象に残っているのは、捨て問はあるけど簡単に捨てて欲しくないという話。どこまでなら自分にも手が届くか、できるところまでちゃんとやろうって思えるようになりました。

武内: 僕は共通テスト地理(宮路秀作講師<共通テスト地理探究>)も受けました。社会は後からなんとかなるって周りに言われていたけど、結局秋になって初めて自分のヤバさに気づいて。焦らざるを得なくて、なんとか間に合わせるという感じでした。地理は、ほぼ基礎知識なし状態から始める人が多いと思うので、春から始めようが秋から始めようが特に変わらないってことなら、春からやっていた方が共通テスト模試を無駄にしないで済む。勉強すれば点数が取れる問題が多いので、今思えば早めに始めた方が良かったです。

あと、EQ(英語基礎カトレーニング講座<English Quest>:テストに合格するまで帰れないAC伝統講座)は、初回は準備不足が裏目に出て失敗しました。でも二回目からはちゃんと覚えて行ったので苦労はしなかったです。初回はみんなに「え、龍歩が再テスト!?!」ってざわつかれて。それもいい思い出です(笑)。

寺田: 思っていたより厳しかった(笑)。ここでギュッとイデオムと単語と会話表現を詰め込むことができたっていうのはやっぱり安心感が違いました。EQでやったから何が出ても大丈夫だろうっていう感じで。

武内: あと、共通テストリハーサル(12月末の二日間、共通テスト当日と同じ時間配分・会場の雰囲気共通テスト本番を体感するAC特別講座)。普段の模試は、そもそも腕時計も持って行ってなかったし、シャーペンで解いてた。でも、共テリハで受けた数1Aがけっこう時間カツカツで、時間を見ていなくて最後のマークをする前に試験終了の合図があって。「本番ではちゃんと時間を見て5分前になったら勘でもいいからとりあえず全部埋めよう」と決断することができたし、鉛筆を実践する機会としてもめっちゃ良かったです。

寺田: いつも学校の模試は一日で完結していたから、その一日にフォーカスを当てて体調管理とかに気を配ればよかった。でも、それを二日続けてとなると、一日目の体調はもちろん二日目まで保てるようにしなきゃいけない。体力や、問題を解く上でどれぐらい頭を使うのか。もちろん真剣には取り組むけれども、やりすぎたら後の教科や二日目に響くっていうこともあるからリハーサルでそれを体験できたっていうのは大きかったです。

集中して勉強できる場所は?

寺田: アカデミーの自習室と学校。学校が終わったら塾に来て。家ではあまり集中できなかった気がします。家のデスクは、目の前にパソコンを置いてあるのでやっぱり触ってしまっ。でもアカデミーに来たら周りの子みんなやってるからモチベーション維持という面でもだいぶ助かりました。

武内: 僕は学校か図書館かアカデミーか…開いてるところに行くみたいな感じ。基本、家ではしてなかったです。



勉強で工夫していたことなどを教えてください。

武内: 初心忘るべからず。このインタビューを読んでくれている後輩がその時どの時期なのかによって変わるんですけど、焦ってるんだったら焦らないほうがいいし、焦ってないんだったら焦ったほうがいいし…。勉強していてなんか居心地悪くなっていう瞬間があっても、何かをして解決しなきゃいけない。完全にゾーンに入った時って明らかに時間の流れや解くスピードがグッと上がってるけど、毎日その状態は難しいと思うので、とりあえず自分が好きな教科と一旦休憩するルーティンは持っておいたほうがいいと思います。僕の場合は自習室の廊下に出て、先輩たちのインタビューを読んだり、意味もなくトイレ行ったりしてました。それで切り替えられる時があったので。あと、周りがみんなタイマーを使って勉強してたので、僕もやってみようと思って買いました。でも、みんなは勉強時間を測る、逆に僕は勉強していない時間を測るっていう使い方をしたんです。朝に2時間セットして、勉強していない時間にスタートしたら、どんどん自分の持ち時間が減っていく。時限爆弾みたいな感じで、あ！ヤバいやババ！勉強しないと！って(笑)。例えば、勉強時間が4時間って受験生としてはまだまだなんですけど、でも僕はけっこうやったなって思ってしまう。でも逆に「4時間も無駄にした」って思ったら、うわヤバッ！って。なんか僕は達成感っていうより危機感の方がモチベにつながりました(笑)。

寺田: 過去問を解く時は、一年分セットで時間を測ってやるようにしてました。特に数学。数学は6問構成で、年によって難易度のばらつきがあるんですけど、その中でもいい問題とかこれは計算量が多いただけとかの問題があって。授業や問題集を使って勉強しているときには「いい問題」しか出て来ないから、過去問を解く時はいろんな問題が入ったセットでやって、捨てるかどうかの判断も練習しなきゃいけないなと。あと、各科目で自分の最低ラインがどこかというのを見極めるようにはしてました。「東大=難しい」ってイメージがあって、難しいことができなきゃいけないって思うと思うんです。でもそれも大事だけど、どっちかと言うと自分が出せる最低ラインをどこまで上げるかっていうのが一番大事だと思って。僕の試験会場は地下の教室でジメっとしてるし暗いし怖い感じで。そういう環境でも自分の実力ちゃんと出せるように準備しておくって。どんな環境でもこれぐらいの点数は安定して出せるっていうラインを自分で引き上げていくことが、環境面との兼ね合いで必要だったなって感じました。



2025.06実施 高3受験生対象 AC『大勉強会』
総学習時間480分の勉強会



後輩へのアドバイスをお願いします。

武内: 音楽を聴きながらの勉強は終了すべき。何もなしに6時間勉強するっていうのは絶対きついですよ。だから音楽を聴きながら楽しくやるというのもわかるんですけど。正直そんなことをするより、6時間でやる予定だったものを3時間で終わらせて、早く帰って家でゲームするほうがいいんじゃないかなって。僕もずっと聴いてたんですけど結局思考がスローペースになる。5分で解ける問題が6分になるし、10分の問題が12分になる。ちょっとずつ時間が無駄になる。やるべきことをサッとやってサッと楽しむ、という方法にシフトチェンジすべき。それに関して言うと、僕、はじめは学校終わったらすぐアカデミーに来て22時までいるということが目的になってたこともあったんですけど。はなから長時間やるではなくて、やることやって勉強が嫌になったら帰る、ちょっと自習室で勉強する、というぐらいの意識でやったほうが、受験勉強で病むとかそういうことにはならないと思います。あ、あと、勉強中におやつはいらないうです。太るだけなので。毎日グミを買うとしたらグミ代だけで何万円ってしてると思う。グミを噛むよりは、ペロを回すほうが集中できる(笑)!

寺田: 僕も音楽は聴き始めて10分ぐらいで「あ、これ問題解けないじゃん」と思っていつもすぐ外してた。つけては外して…ってこれの繰り返しで結局聴かなくなりましたね。やっぱり脳のリソースが割かれるんかなって思います。

武内: あと、学歴厨化している集団にならないようにするべき。ちょっとズレ始める瞬間があるんですよ。僕、共通テストの地理はわかってから一気に伸びたんです。「地理おもしろ！」って。地理の点数が取れないから途中で受験科目を政経に変更した子もいたんですけど、周りに流されて“自分”を変えるより、貫いて「なんとかなる精神」のほうがいいなって。「これはもう政経チェンジだ」とか「文転だ」とか、この大学のこの学部がどうたらこうたらって言い始めるかもしれないんですけど、そんなこと考えるよりYouTube消して、シャー芯を潰す時間に充てたほうがいいんじゃないかって。理科を削ったり、数Ⅲを選択しないとかもそう。進路の問題だからいいんですけど、やるだけやりなさいとは思いますが。

寺田: うん。せめて学んでから捨ててって思う。それに関しては僕は学校で理系生が世界史選択できないっていうことにけっこう怒ってるから(笑)。理科を3教科できたというのはよかったよね。学んだ上で選べたもんね。



Academy Campusはどんな場所でしたか。

武内: “塾”っていうイメージじゃなかったですね。毎日のようにアカデミーに来ていて。自宅とのアカデミーの往復。アカデミーにすることが生活の一部になってました(笑)。授業が終わったらみんなで話したりしてコミュニケーションを取ってたし。他の塾に行っている友達もいたけど僕はアカデミーで不足しているとは思わなかったし、もしそう思ったとしてもそれは塾のせいというより自分のせいかなと思います。

寺田: 僕は「あったかい」って感じました。同じ桐蔭生の子も大勢いて。確かにみんな勉強に打ち込むんだけど、打ち込みながらも、先生や仲間とのコミュニケーションがちゃんとあって。受験直前は喋りませんみたいな感じじゃなくて、喋りながら一緒に帰ったりとか。挨拶ひとつとっても、あったかいなっていつも思っていました。



どんな大学生活にしたいですか。

武内: すごい人たちがいっぱいいるんやろうなと思うんですけど。何か一個成果を残したいなど。教授の記憶に残ったりとか、友達と良い思い出を残すとか…埋もれないように過ごしたいっていうのが、漠然とあります。

寺田: 将来のことも特に考えなくて、とりあえず単位を取りまくろうって思ってます。けっこう時間的に余裕があるので、そこをうまく使って龍歩のように他の人の記憶に残るっていうこともやりたいですし、何よりも自分が東大に来てよかったって思える生活にしたいなと思ってます。



インタビューを終えて

武内君と寺田君は、「勉強と部活・課外活動の両立」を高いレベルで実現していました。

武内君は柔道部や生徒会活動(高3前期副会長)に積極的に取り組み、寺田君は科学部や桐蔭祭活動(桐蔭祭HP作成)で成果を上げるなど、それぞれが自分のフィールドで力を発揮していました。それだけでなく、創作部俳句班の助っ人として三年連続で俳句甲子園に出場し、高3の8月後半まで大会で活躍していました。しかし、どれだけ忙しい状況にあっても日々の学習を疎かにすることはなく、むしろ限られた時間の中で集中して取り組むことで、学習の質を高めていた点が非常に印象的です。

また、二人に共通しているのは「何事にも楽しみながら取り組む」という姿勢です。定期テスト一つにしても、ただの試験と捉えるのではなく、自分の実力を高めるための大切な機会と位置付け、点数や順位にこだわって徹底して準備を重ねていました。その積み重ねが、最終的に

大きな成果へとつながっています。部活動や課外活動においても同様で、目の前のことに全力で向き合う経験が、自信や粘り強さを育て、受験という大きな挑戦を乗り越える土台になっていたのだと思います。

二人の姿から学べるのは、特別なことをする必要はなく、目の前のことに本気で向き合い、それを楽しむことが結果につながるというシンプルな行動です。勉強と部活・課外活動の両立に悩む生徒にとって、これ以上ない手本になると思います。

合格おめでとう！部活や課外活動と勉強を両立し、何事にも全力で楽しんできた姿勢をそのままに、大学でも挑戦を続けてください。積み重ねた努力が、これからの大きな飛躍につながることを期待しています。

AC県庁前校カウンセリングスタッフ 赤井 栄木